

東川町の令和4年度予算は 146億2400万円

東川町の本年度一般会計当初予算は、一般会計136億6800万円（前年度比34・95%増）に特別会計9億5600万円（同43・54%増）を合わせた総額146億2400万円（同35・48%増）で策定しました。

■行政執行方針



第1 はじめに

早いもので今年度は任期の最終年度を迎えます。この3年間を振り返ってみますと2年前に世界的なコロナ感染が起き、その後も終息することなくコロナウイルスは変異を繰り返し、平常の暮らしが戻らないことは誠に残念でありま

す。しかし、私たちは、このコロナ禍の経験を踏まえ、「未来へ繋ぐ」安定した自治の確立を目指して行かなければなりません。未来へ描くまちづくりは、全国画一的なものではなく、「過疎でもなく、過密でもなく、疎を大切にされた適疎な心（町内住職の教示）をもった」適疎な町です。適疎な町の基本は、お互いの顔が見え、挨拶を交し、会話が弾む コミュニティ

創造性のある環境が大切にされる社会です。

「地方に住む人間（GEN）が、地方にある資源（GEN）を生かし、住民福祉向上に資するための財源（GEN）を確保する」（3 GEN確保と循環）が問われています。町の活性化は町が活性化するのはなく、基本は町で暮らす人々一人ひとりであり、役場で住民福祉向上のために尽力している職員一人ひとりが活性化することにあります。職員の国内外での研修と提案を奨励し、前例にとらわれないIDEAの創出、決断力と実行力を重んじなければなりません。一人ひとりが意識を変え（Change）、挑戦（Challenge）する士気を持ち、好機（Chance）を掴むことが重要であります。特に、住民が町を自慢でき、個性と

「地方に住む人間（GEN）が、地方にある資源（GEN）を生かし、住民福祉向上に資するための財源（GEN）を確保する」（3 GEN確保と循環）が問われています。町の活性化は町が活性化するのはなく、基本は町で暮らす人々一人ひとりであり、役場で住民福祉向上のために尽力している職員一人ひとりが活性化することにあります。職員の国内外での研修と提案を奨励し、前例にとらわれないIDEAの創出、決断力と実行力を重んじなければなりません。一人ひとりが意識を変え（Change）、挑戦（Challenge）する士気を持ち、好機（Chance）を掴むことが重要であります。特に、住民が町を自慢でき、個性と

に今年は「子どもに良い 健康に良い 環境に良い」の「3つの良い」を重点として住民の福祉向上を目指して行きますので、議会を始め、住民各位の深いご理解をお願いいたします。

第2 基本的な考え方

今年度は、昨年述べました「NEW IDEA」を継続しながら、今までの行政執行を踏まえ、適疎な心を磨き、大切にし、適疎な町づくり行政の執行を目指します。

1. 適疎推進

コロナ禍の経験を踏まえ、今まで進めてきました「過疎でも、過密でもなく、疎であることを生かした 適疎な町づくり」を推進します。

ア、人口維持と地域コミュニティとの連携

少子化が続く中、人口8千人を維持できる町づくりを地域コミュニティとのパートナー連携により取り組めます。

【空地・空き家対策、地域人口維持対策、交通・通信対策（通信DX化）】

イ、新しい「稼べ」行政の推進

住民福祉向上には常に安定した財源が必要であり、町が所有する財産や資源等を利活用し、財源の確保に取り組みます。

【東川振興公社との連携、魅力あるふるさと納税、町有財産の確保と利活用】

ウ、行政情報の手引き作成

未来へ向かって魅力ある町づくりを繋ぐため、町づくりの内容を解り易く纏めたものを希望者へ配布し、住民のまちづくりへの関心を高め、一層の参加推進に取り組みます。

【公共施設の運営指針、公共施設の投資と起債（償還計画）、歳入確保計画（地方税、地方交付税、ふるさと納税など）】

2. 飲水忠源

先人が今日まで築いてくれた歴史と教育・文化資源等に感謝し、更に生かし、大切にしたい町づくりを推進します。

ア、中心市街地などの価値創造の推進

先人が築いてくれた文化施設等の保存と利活用、新たな価値の創造などにより、中心市街地の一層の活性化推進に引き続き